

今日のキーワード 『街角景気』は現状が3カ月ぶりに改善

「景気ウォッチャー調査」、いわゆる『街角景気』とは、景気に敏感なタクシー運転手や小売店、メーカー、輸送業、広告代理店など、地域の景気の動きを敏感に観察できる立場にある約2,000人を対象とした調査です。2019年2月の『街角景気』は、足元の景況感を示す現状判断指数（DI）が3カ月ぶりに改善しました。内閣府は、『街角景気』の基調判断をやや上方修正しました。

ポイント1

現状判断DIは前月比+1.9ポイントと3カ月ぶりに改善 先行き判断DIは2カ月ぶりに悪化

- 2019年2月の『街角景気』によると、現状判断DI（季節調整値）は前月比+1.9ポイントの47.5でした。景況感の改善は3カ月ぶりです。ただ、水準は14カ月連続で景気判断の節目となる“50”を下回りました。
- 項目別では、企業動向関連、雇用関連、家計動向関連の3項目ともDIが上昇しました。暖冬で春物衣料が好調だったほか、訪日外国人客の需要で小売関連中心に家計動向関連が大きく改善しました。
- 一方、先行き判断DIは前月から▲0.5ポイントの48.9と、小幅ながら2カ月ぶりに悪化しました。項目別に見ると、企業動向関連、雇用関連が上昇したものの、家計動向関連が低下しました。

ポイント2

現状判断は景気にネガティブな単語の比率が低下 「株価」に関するコメントが減少

- 街角の声をより客観的に分析する、当社独自のテキストマイニングによる分析手法（*）によると、ウォッチャーの現状判断に関するコメントからは、ネガティブな単語の使用比率が大きく低下しました。「株価」に関する言及が減っており、株安への警戒の緩和が、家計動向関連を中心に、景況感の持ち直しにつながった可能性がうかがわれます。
- 一方、先行き判断については、「消費増税」が引き続き高水準となり、現状判断の景況感の持ち直しと裏腹に、景況感の重石となったとみられます。

（*）テキスト（文書）をコンピュータで探索する技術の総称。典型的な例として、テキストにおける単語の使用頻度を測定し、テキストの特徴を統計的に分析・可視化することで、背後にある有益な情報を探ることができます。



今後の展開

内閣府は基調判断をやや上方修正、国内景気はまだら模様

- 今月はウォッチャーの現状に対する景況感を持ち直した一方で、先行きの景況感はやや慎重化したと言えます。内閣府は景気ウォッチャー調査の基調判断を、「緩やかな回復基調が続いている」とし、前月の「緩やかな回復基調が続いているものの、一服感がみられる」からやや上方修正しました。先行きについては、「海外情勢等に対する懸念もある一方、改元や大型連休等への期待がみられる」と据え置きました。『街角景気』からの強い示唆はありませんが、国内景気はまだら模様が続きます。

ここも チェック!

2019年3月 4日 『法人企業統計』は10四半期ぶりに経常減益
2019年2月15日 日本の10-12月期『実質GDP』は小幅にプラス

■当資料は、情報提供を目的として、三井住友アセットマネジメントが作成したものです。特定の投資信託、生命保険、株式、債券等の売買を推奨・勧誘するものではありません。■当資料に基づいて取られた投資行動の結果については、当社は責任を負いません。■当資料の内容は作成基準日現在のものであり、将来予告なく変更されることがあります。■当資料に市場環境等についてのデータ・分析等が含まれる場合、それらは過去の実績及び将来の予想であり、今後の市場環境等を保証するものではありません。■当資料は当社が信頼性が高いと判断した情報等に基づき作成しておりますが、その正確性・完全性を保証するものではありません。■当資料にインデックス・統計資料等が記載される場合、それらの知的所有権その他の一切の権利は、その発行者および許諾者に帰属します。■当資料に掲載されている写真がある場合、写真はイメージであり、本文とは関係ない場合があります。